

# 2022 年度入試結果総評

—熊本県—

2022 年度入試の前期・後期選抜制における概要は以下の内容です。

- ①前期選抜の募集人員は定員の 50%以内とする。
- ②絶対評価への不平等感を是正する目的で、後期選抜において調査書の評定を学力検査の得点を用いて補正する。
- ③後期選抜において、第 1 次選考後の選抜基準は各高校で定める。(熊本高、済々黌高、第二高、第一高などは、概ね評定よりも学力検査を重視)

前期選抜が実施された学科やコースでは2度の受験機会を生かそうとする受験生が多く、前期選抜の志願倍率は相変わらずの高倍率となりました。しかし、コースを除く普通科では、平成 24 年度から前期選抜が廃止され、後期選抜のみの一発勝負となっています。

後期選抜においては、最難関の熊本高校は 2021 年度の 1.40 倍から 1.39 倍、済々黌高校が 1.56 倍から 1.66 倍、第二高校（普通）が 1.38 倍から 1.59 倍、第一高校（普通）が 2.01 倍から 1.79 倍と、いずれの高校も激戦となりました。入試問題の難易度については、例年並みでした。どの科目も、試験時間 50 分で解くには問題数が多く、記述式の問題や難易度の高い問題も出題されるため、短時間で、正確に文章を読みとり、正解を導く力、表現する力が必要です。熊本市内の上位校の合格を手にするには、早くから準備し、高い学力をつけ、入試レベルの問題を数多くこなしておくことが重要です。

熊本県の公立高校入試の平均点推移は下記のようになっております。平成 31 年以降、顕著に難化が進み、令和 4 年度は、ここ数年の中で、最も平均点が低くなっており、この傾向は続くものと予想されます。平均点が満点の 50%を切っていることを考えると、決して易しい問題とは言えません。合格を確実に手にするためには十分な準備をし、高い学力をつけておくことが必要です。

熊本県 公立高校入試 平均点推移 (各 50 点、計 250 点満点)

	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
国語	24.2	26.2	29.7	26.9	25.4	20.5	24.8
社会	27.1	27.8	27.7	25.5	23.6	23.6	21.7
数学	25.4	22.3	24.2	22.7	22.2	22.9	23.3
理科	24.9	23.3	21.8	23.5	21.8	26.4	23.5
英語	26.1	29.9	29.5	28.0	24.3	26.2	22.7
合計	127.8	129.6	132.9	126.5	117.4	119.6	116.0

\* 数学・英語はA問題・B問題の平均を記載しております。

\* R3・・・感染症対策での長期休講に伴い、入試範囲中3学習内容一部削除内容ありの年度。